



祐介の目

No.153

大田祐介 (福山市議会議員)

のが米海軍総司令官のチエスター・ニミッツ元帥だった。若きニミッツは日本海海戦の戦勝祝賀会に招待され、英語が堪能な東郷と面談して深い感銘を受けたという。その29年後の東郷の国

東郷平八郎

先日、念願の戦艦・三笠に乗艦してきた。日露戦争はロシアの極東進出によって日本が存亡の危機に立たされたが、日本の勝利を決定づけた日本海海戦において三笠で指揮を執り、ロシアのバルチック艦隊を一方的に撃破した名将が東郷平八郎だ。決戦を前に「皇国の興廃この一戦にあり、各員一層奮励努力せよ」と全艦に打電し、有名な「Z旗」を掲げた。今日の日本も興廃の危機にあると思うが、日本人は東郷の言葉を思い出して乗り切る努力が必要だろう。

三笠は現在、紆余曲折を経て世界三大記念艦として横須賀にて公開されているが、何度も廃船の危機があったそうだ。戦後、ソ連がまず解体を要求、米軍はそれを拒否したが三笠の艦上の艀装は鉄屑として売却され、甲板上はダンスホールとなり、かつての三笠は見る影も無くなっていた。それを見かねて立ち上がった

葬にも参列している。ニミッツは荒廃した三笠の復元を呼びかけ、自らの著書の印税を寄付し、それに呼応して多くの日本人も立ち上がり、かつての三笠が再現された。この時こそ敗戦後の日本が誇りを取り戻した瞬間だった。

ニミッツは第二次大戦、米海軍の総司令官として、マリアナ諸島から東京へ北上を主張したが、米陸軍の総司令官マッカーサーはアイシャルリタインの約束を果たすためフイリピンで不要な戦いを行い、戦後はGHQの総司令官として様々な占領政策を打ち出し、日本人を骨抜きにした。

もし東郷を尊敬するニミッツがGHQの総司令官になっていたら戦後の日本は大きく変わっていたのではないか。マッカーサーを知っていてもニミッツを知る日本人は少なく、再評価されるべき人物と感ずる。なお、備後護国神社には東郷直筆による日本海海戦の慰霊碑が残されている。ぜひお参りして欲しい。